

新潟連協 退職者の会

# 春 夏 秋 冬

2023年5月31日 第35号

JP 労組新潟連協退職者の会  
 〒951-8799 新潟市中央区東堀通  
 7番町1018 新潟中郵便局内  
 発行責任者 会長 戸田庄一

## 会員の拡大に全力を挙げよう！



支部&退職者の会打合せ会議(2023.3.5)

会員の高齢化と組織の減少が続く「新潟連協退職者の会」、いま最大の課題は、会員を増やすことにある。3月5日(日)、「まちなかキャンパス長岡にて、第3回新潟連協幹事会と支部事務局長等による合同会議が開催された。この会議の中で、3月末退職時の会員拡大に向けた具体的な取り組みについて方針が確認された。

その後、「ホテルニューオータニ長岡」に移動し、JP労組信越地本主催の「支部と退職者の会との打合せ会議」が行われた。この会議は、例年、この時期に合わせ会員及び協力会員の拡大を目的に取り組みされている。

関川地本書記長の趣旨説明と進行により、福井連協議長、戸田会長挨拶の後、各支部ごとに分散し個別の打合せを行った。最後は笹井連協副議長のまとめにより会員拡大の当面する取り組みについて意識統一が図られた。

### (福井連協議長)

午前中は恒例の2023春季生活闘争の決起集会を行い、止まらない物価高騰に対し、大幅賃上げを勝ち取る意思結集を図った。

コロナ禍が長く続き、組合員が結集する活動が不十分となっている。現役の組織も退職者の組織と同様に減少が続いており、信越全体で9千名を割り込んだ。

正会員と協力会員拡大の取り組みは、現役が主体性をもって取り組んでいかなければならない課題である。本日の打合せの中でお互い確認し、それぞれの地域で拡大の成果が挙がる行動を取り組んでほしい。

### (戸田退職者の会々長)

新潟連協退職者の会は、協力会員制度のスタート前から独自の予約会員制をつくってきた。65歳定年制の導入に伴い60歳から協力会員とすることも可能となり、環境も変わってきた。会員拡大の取り組みは現退の連携が極めて重要な共同

### 作業である。

全国の会議に参加して、新潟連協は現退の連携が最も進んでいると思える。

本日の現退打合せ合同会議を機にさらに連携を深め成果を上げよう。

### (各支部個別打合せ)

3月末に退職を迎える人や60歳以降の対象者名簿をもとにリストアップを行い、現退の担当者を配置するなどの打合せを行った。

また、取り組み状況の共有を図るため、支部執行委員会や支部幹事会への相互参加等についても確認された。

### (笹井連協副議長)

60歳になって協力会員への加入資格があることを知らない組合員もいる。漏れないようシッカリと対応していく。本日、現退で打合せ確認した内容に基づき、当面、4月一杯まで集中的な取り組みをお願いしたい。

### 第 3 回連協幹事会・支部事務局長等合同会議



戸田会長あいさつ(まちなかキャンパス長岡 3/5)

## 現退の支部役員による個別打合せ

協力会員は現役  
がやらなければダメ  
めらこてさや



中越支部

現退の支部役員による  
60本1本勝負の打合せが  
真剣に行われています。  
**拡大めざして  
ガンバロー!**



三条支部

何とかなるっちゃ



佐渡支部

これは誰が担当  
するんだや



下越支部

これは、おめえが行か  
んばだめらこてや



新津支部



新潟支部

次の執行委員会は  
いつらて、2人で入  
るから頼むれ



西蒲原支部

この人はちょっと  
変わってるっけ、  
かなり面倒らかも  
しんねえなあ〜



魚沼支部



上越支部

# 新しい会員のご紹介

## 4月加入者

支 部	氏 名	支 部	氏 名	支 部	氏 名
新 潟	池田 作二	西蒲原	清水 彰	上 越	中川 久雄
佐 渡	大屋 利夫		八百板照雄		齊藤 憲一
新 津	鷲尾 道夫	三 条	松平 信彦		長崎 保
	長谷川正人	中 越	池田 賢司		笠尾 章
	熊倉 裕久		佐々木 伸		柳崎 聡
水野 芳春	椿 務				
今井 武史	佐藤 正道				
西蒲原			計	19名	



2022年度後期共済担当者会議

### J P 労組信越地方本部主催 後期共済担当者会議

J P 信越地方本部主催の2022年度後期共済担当者会議が高崎市「ホテルメトロポリタン高崎」において、2月22日（水）に開催されました。

地方本部役員及び支部役員、退職者の会より総勢60名規模で開催され、新潟連協退職者の会から戸田会長・山田事務局長が参加しました。

塚野地本委員長及び林郷（株）「郵愛」代表取締役の挨拶後、今年度前期の取り組みについて、綿貫共済担当から課題を含め報告がされました。

後期の取り組みについては、6月末日までの期間に引き続き、「火災・自然災害共済」を重点に取り組み、「マイカー・自動車共済」、「交通災害共済」は「交通災害共済」は時期を設定した集中取り組み商品として提案されました。

その後、竹内共済運営委員より、共済学習会として、「自然災害と備え」をテーマに講演がありました。

### 新潟県退職者連合 新会長を選出

2月24（金）、新潟県退職者連合は、第3回拡大幹事会を新潟市「万代市民会館」で開催し、各産別の代表や地域退職者連合の代表など、30数名が参加する中、緊急の役員改選と当面する取り組みについて意識合わせを行いました。

会議の冒頭、1月21日に急逝された齋藤由宣前会長のご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。

その後、会長の空席を補充するため、急遽開催した役員選考委員会からの要請と報告をふまえ、新会長に山田太郎副会長（J P 労組新潟連協退職者の会）を選出し、その後、拡大幹事会の協議に入りました。



山田会長

当面する取り組みとして、4月に開催される統一自治体選挙への対応や組織結成30周年の定期大会及び記念祝賀会の運営について意見交換しました。

投稿コーナー

(俳句)

獣道けものになりて零余子採る  
断捨離の木の重みの秋思うかな  
初空や五にこだはれば

五羽の朱鷺  
佐渡支部 赤塚 五行

一本の縦より冬の序章

雪降ると遠見る習いはにかむよ  
山彦は冬木の音又ブーメラン

随所ずいしよに男結びや冬の庭  
雪しんしん気韻を積みて  
サラサーテ  
西蒲原支部 原田 耕治

(川柳)

山茶花の紅を隠すか初雪に  
老禰宜の醸す篠笛音途切れ  
山茶花の落花狼藉木枯や

上越支部 小島 昌一

(俳句)

足跡は一直線に猫の恋い

この頃、猫を飼う家が少なくなり、  
恋猫の声が聞こえなくなってきた。  
男の猫も迷わずに進んだ跡を見つける

孫の手にひとつ分けたり桜餅

桜餅それは妻の得意な料理、孫がおれ  
ばそんなことも出来ようが、せつせと  
作り友達の所に配る。私には味見程度

北窓を開けば農具も目覚めたり

三月十日落とし板を外す。作業所の中  
が明るくなった。なんとなくトラク  
ターも目覚めたようだ。もう春だ。

今年も今日で終わり、目を閉じてみると切  
なかつた日々が目止まる。その一つが。妻  
の膵臓癌の早期発見でできた手術。これで畑  
作を完全に放棄。周りの人からもらう野菜で  
凌ぐ。ありがたい。

野草の中の食用菊が必死に花を咲かせた。  
妻が大切に育てた食用菊。それを食べた妻の  
回復が早くなる。感動そのものだった。困難  
なことがあまりにも多く、俳句を通して、気  
分の転換を図った一年でした。

令和四年十二月吉日

中越支部 角山 徳郎



中越支部 土田 春男



中越支部 土田 春男



中越支部 小池 俊江



中越支部 東 條文孝

俳句・短歌・川柳・絵手紙・絵画・写真・書など、  
手作り作品応募は、ハガキか適宜な用紙に「作品・支部・氏  
名」を記入し、右記へ送付してください。なお、メールでデータ  
送信可能な方は、アドレスをお願いします。

〒951-8799 新潟市中央区東堀通  
7-1018 新潟中郵便局内  
J P 労組新潟連協退職者の会  
メール niigatarenkyo@jprouso.or.jp

支 部	氏 名	支 部	氏 名	支 部	氏 名
新 潟	西脇 禎子	新 津	落合 省吾	中 越	磯野 マキ
	佐藤 フキ		渡辺喜代江		星野 正二
	小池 和子		広瀬 尉子		安中 弘達
	宮川 一男		小林 俊夫		中山 東一
	松原やす子		笠井 勇	魚 沼	井口 嘉男
	田辺 幸平		長尾 澄江		数藤 清治
	栗田 鈴子		高橋 一重		阿部 正市
	渡辺 耕七		古川 一郎		漆原 昇作
	大坂 利夫		高村 太郎		田邊佐武郎
	岩崎 一夫		山際 忠昭		高橋八百三
佐 渡	山本 幸子	西蒲原	樋口 和子	上 越	笹井ミサヲ
			山田 晃		牛木 勇
渡辺ふみえ	西山 信義				
下 越	須藤 鉄男	三 条	瀧澤 瀧雄		田中 七雄
	本間 隆		栗林 綾	里麻 柳一	
	佐藤 信		上木 正尚		
	野口甚一郎		矢島 春夫		
	青木 宣雄	中 越		計	49名



今年度、「長寿のお祝い」は、2023年4月1日から2024年3月31日までの間に88歳を迎えられる会員が対象となります。このお祝いは、長年のご労苦に感謝の気持ちを込め、「日本郵政グループ労働組合」と「退職者の会」の連名により、会員の自宅に送付されます。この記念品は、4月20日の郵政記念日にあわせて、J P 労組中央本部から一括、上記の会員に届けられています。

**長寿で健康  
生き生きコーナー**

**笛吹きで人生謳歌**

下越支部（村上分会） 三浦修一



定年退職で考える「第二の人生」、満60歳で迎えた定年退職、年金制度の変わり目で再雇用の道もあつたのだが、共済年金と互助会積立金を年金にあて、ギリ贅沢な生活を望まなければ暮らせるかと決断し、気楽なストレスのない日常生活と「趣味」を生涯学習に設定した私の「第二の人生」の始まりだった。

私の趣味とは、フルートを吹くことである。高校時代に吹奏楽部で学んだ楽器で郵便局に採用となつてからも地域の吹奏楽団に所属したり、個人でチョットしたイベントで吹いて楽しんでた。

フルートは、独学で始めたので退職を機にもう一度基礎から専門の先生に学び、極めたいという思いから、新潟市内の中林恭子先生の門を叩いた。中林先生は、東京芸術大学器楽科フルート専攻を卒業された県内初の人である。

尋ねた理由は、大変な苦労をされて芸大に入ったことである。毎月一回のレッスンを受けながら市内外での各種イベントや温泉旅館でのロビー演奏、特養施設等の訪問演奏、私自身のコンサート等を行い、レベルの向上をめざしている。

特養施設の演奏では、身じろぎもせず目を開き、体をわずかに揺すり微笑みを浮かべる。周りは、一時間近く音を立てずに聴いている。最後に、「音楽っていいね！」の一言が忘れられない。これからも心身ともに健康であれば、私の「第二の人生」を謳歌したい。

